

命について考える日（4月）

「いのち一番」

いのちは、誰もが大切であると認めるもの。そんなに大切なものならずっとそのままいてくれたらいいのと思うけど、必ずいつかはなくなってしまう仕組み。

さて、昨日の晩ごはんは？お肉、魚、野菜、ごはんなど様々だけど、野菜や植物もいのちがあり、そのいのちをもって、それぞれに生きていたに違いない。でも、食事をしないと死んでしまう。そのためにはいのちをいただかなければならない。

わたしたちは、いろいろないのちの恵みによって生かされている。そのおかげをいただいているという感謝の心を持たなければならない。

まずは自分のいのちの大切さを知らなければならないし、そうでないと同時に他のいのちも大切にできないことになる。

人のいのちは一度きりで、自分のいのちは自分に与えられた時間だとも言える。これから生きていく時間。それが君たちのいのち。

一度しかない自分の時間。その一人ひとりのいのちは誰でも限りがあることは、当たり前のこと。

だからこそ、どうかその時間を大切にしてほしい。

そして、命、つまり時間をどのように使うか、しっかりと考えて生きていってほしい。さらに言えば、限りあるいのちであるからこそとても大切なものであり、自分だけでなく他の人や物のいのちも大切にしなければならない。そして、そのいのちを自分以外の何かのために使うことを学んでほしい。